

施策マネジメントシート

施策	20 いつでも、どこでも、だれでも学べる環境づくり		
施策 主管課	生涯学習課	氏名	田中親吾
施策 関係課	教育総務課、図書館、御坂・一宮・八代・境川・春日居・芦川支所 地域住民課		

1. 現状把握 Plan→Do

(1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ◇ 市民 ◇ 市民団体	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位) a 笛吹市の人口<山梨県笛吹市住民基本台帳行政区別人口統計表(4月1日現在)> 人 b c
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇ いつでも、どこでも、関心のあるテーマを見つけ、目的を持って自主的に学習する。 ◇ 自主的に講座を開設する。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位) d 何らかの学習を続けている市民の割合 % e 自主学習グループ数 団体 f 図書資料の総貸出件数 件 g h
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇ 目的をもって学習に取り組んでいるかを、直接市民に聞く。 ◇ 自主的な学習が進んでいるかを自主講座開設数で判断する。 ◇ 学習に必要な資料が整備されているかを図書資料の総貸出件数で判断する。	⑥ 成果指標の取得方法 ◇ まちづくり基礎調査⇒設問『あなたは、現在、何らかの学習を続けていますか?』選択肢『はい、いいえ』 ◇ 自主開設講座数(新規):生涯学習課把握 ◇ 図書資料貸出数:図書館把握

(2) 指標・事業費等の実績推移と目標値

			23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
			実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、決算	実績、見込み	最終目標
対象指標	a 笛吹市の人口<山梨県笛吹市住民基本台帳行政区別人口統計表(4月1日現在)> 人	見込み値	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000
		実績値	72,192	72,145	71,724	71,132	70,749		
	b	見込み値							
		実績値							
	c	見込み値							
		実績値							
成果指標	d 何らかの学習を続けている市民の割合 %	成り行き値	23.0	23.0	22.6	23.1	23.6	24.1	24.6
		目標値	23.5	24.0	23.4	23.9	24.4	24.9	25.4
		実績値	23.1	24.1	23.4	-	-		
	e 自主学習グループ数 団体	成り行き値	44	45	46	47	48	49	50
		目標値	44	46	47	50	52	53	54
		実績値	43	47	55	58	53		
	f 図書資料の総貸出件数 件	成り行き値	680,000	690,000	648,400	638,700	629,100	619,700	610,400
		目標値	670,000	679,000	670,400	680,400	691,600	703,000	714,600
		実績値	668,352	647,805	581,467	540,915	546,237		
	g	成り行き値							
		目標値							
		実績値							
h	成り行き値								
	目標値								
	実績値								
施策コスト	事務事業数	本	30	30	32	33	32		
	事業費 (A)	千円	218,723	235,110	365,333	269,216	424,630		
		うち一般財源 (A')	千円	217,079	232,092	291,855	264,479	222,872	
	人件費 (B)	千円	98,960	108,046	103,877	107,097	102,557		
	トータルコスト (A+B) (C)	千円	317,683	343,156	469,210	376,313	527,187		
	うち一財 (A'+B) (C')	千円	316,039	340,138	395,732	371,576	325,429		

(3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

<p>● 後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。</p> <p>◇ 何らかの学習を続けている市民の割合:成り行き値はH20年度から23年度までの4年間の平均値とし、各講座を充実させ、生涯学習の機会提供に努め、毎年0.5ポイント増と設定。目標値については前期基本計画期間の最高値(23.4)を基準として同様に毎年0.5ポイント増と設定。</p> <p>◇ 自主学習グループ数:成り行き値はH23年度実績をもとに1団体増を見込み設定し、目標値はH24年度実績値を基に見直しを図った。</p> <p>◇ 図書資料の総貸出数:成り行き値はH21年度からH23年度実績により減少傾向で設定し、目標値はH28年度にH21年度実績並みに回復する見込みで設定。</p>
--

(4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

<p>ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと)</p> <p>◇ 市民は市、地域、民間教室、大学等が主催する様々な生涯学習の機会に参加する。</p> <p>◇ 地域、民間教室、大学等は、利用者のニーズに合った講座を実施する。</p> <p>◇ 市民は学習意欲を持って自主的に取り組む。</p>	<p>イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと)</p> <p>◇ 市は、生涯学習の場(図書館や生涯学習施設)と機会(市民講座等)を提供する。</p> <p>◇ 市は、生涯学習の情報提供に努めるとともに、市民の取り組みを広報する。</p>
---	---

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

◇団塊世代の退職等に伴い余暇をもつ年齢層が増え、生涯学習、ボランティアのニーズが増えている。◇図書館の相互貸出しなどにより図書機能の充実を図っている。◇施設の老朽化が進み、維持管理費が増加するとともにニーズにあった利用環境が求められている。◇社会教育施設管理に指定管理者制度を導入。◇地域の公民館(スコンティ講座)を使った地域に根ざした講座を展開している。◇市民講座の充実に伴い、自主講座の開設も生涯学習コーディネーターの支援により年々増加している。

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

◇市民から「いつでも学べる学習機会を継続してもらいたい。」との声がある。◇市民講座受講者からは、講座の内容について高評価を得ている。◇施設利用者から、施設の老朽化に伴う不満の声がある。◇受講者から、同一講座を長く継続して欲しいという要望がある。

2. H27年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

Table with 2 columns: ① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較), ② 時系列比較 (過去3か年の比較), ③ 他自治体との成果実績値の比較. Includes checkboxes for target achievement and comparative results, and a table for inter-municipal comparison.

(2)施策のコスト実績 (対象1単位当たり又は住民一人当たりのコスト)

Table with 6 columns: 対象指標名称, (単位), 25年度, 26年度, 27年度, 効率性評価. Lists metrics like personnel costs and total costs per unit.

(3)施策の現状と課題の総括

◇施設の老朽化対策が課題となっているため、改修等で対応が必要。◇施設の統廃合も含め、今後の検討課題である。◇生涯学習講座について、ソフト面で住民から好評を得ている。⇒市民講座事業及び1年を通して学ぶスコレー大学の充実を図っていく必要がある。

3. 後期基本計画の取り組み方針(29年度) Action

(1)現状と課題から導き出した次年度の取り組み方針

◇子どもから高齢者まで、「いつでも、どこでも、だれでも学べる環境づくり」として、市民講座、スコンティ講座や自主講座の時間設定や内容等の見直しを図る中で、今後も各講座を充実させ、生涯学習の機会を提供していく。

(2)施策の対象を、目標に導くための次年度の手段

◇市民の学習意欲や、意向にあった講座の提供を行なって行く。◇自主学習グループが今後も継続して学習して行けるよう、より一層の指導助言を行なって行く。